

春ダイコン「**風**」シリーズの新顔登場

抽苔が安定し、
低温肥大性に優れる

タキイ交配

つや風

タキイ茨城研究農場 藤田 守久

ダイコンの春の栽培は、低温時期ということもあり抽苔や肥大性といったいろいろな問題を抱えています。したが、栽培方法や品種力によってその問題をクリアできています。しかし、年によっては抽苔が発生し、ひどい時には収穫が皆無になる場合があります。

一方、春ダイコンの市場では、安定した品質（特に見た目）と入荷に加えて、味や安全性が望まれています。また、価格の面でも、ダイコンの作型の中では比較的安定した作型として位置づけられています。したがって現在、新たな春ダイコンの品種には病気に強く、揃い・形状が良好なことに加えて、抽苔しにくく安定して収穫できるという特性が求められています。

このような状況の中、抽苔が安定

し、肥大性に優れたダイコンの作出を育種目標として品種育成を行ってきました。そして、数年間試作を行った結果、当初の目標を達成しましたので、このたびタキイ交配「つや風」として新発表することになりました。

以下にその特性と栽培のポイントを紹介し、本種の生かし方の参考に供したいと思います。

品種特性

① 晩抽で低温肥大性に優れる

抽苔が「藤風」よりさらに数日遅くなりました。そのうえ、低温下での伸長性、肥大性は「藤風」より優れているので、「藤風」の作型ですらに安定した栽培が可能です。

② 揃いがよく、秀品率が高い

2月上旬まきのトンネル栽培では、播種後85日で根長38cm、根径8cm程度のサイズによく揃います。根形は青首が淡緑で美しく、肌のテリ・ツヤに優れています。肉質は緻密でス入りが遅く、市場性が高いという評価を得ています。

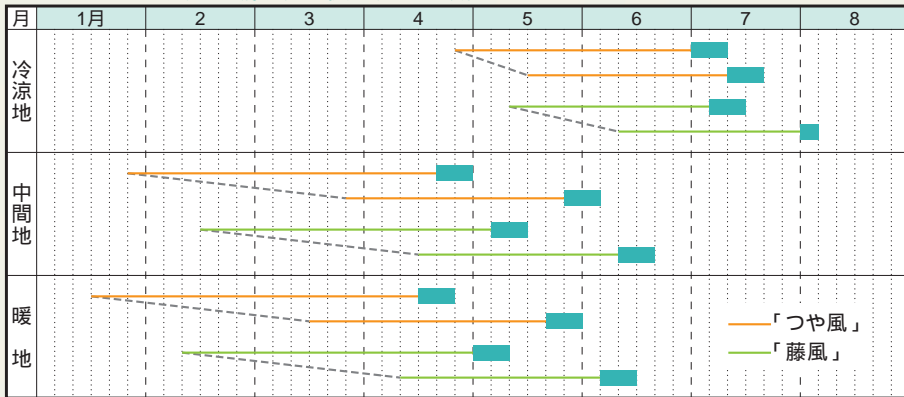
③ 病気に強く、作りやすい

萎黄病に強く、吸肥力が安定しているため、土壌適応性が広く非常に作りやすい品種といえます。

晩抽性と低温伸長・肥大性に優れる「つや風」なら、安定した栽培と出荷が可能。



ダイコン「つや風」と「藤風」の使い分け適期表



「つや風」の適作型

冷涼地：
4月下旬～5月中旬まき

中間地：
1月下旬～3月下旬まき(トンネル栽培)

暖地：
1月中旬～3月中旬まき(トンネル栽培)

月	1	2	3	4	5	6	7	8
冷涼地					トンネル・マルチ	トンネル・マルチ	マルチ	
中間地		トンネル・マルチ	トンネル・マルチ	トンネル・マルチ	マルチ			
暖地		トンネル・マルチ	トンネル・マルチ	トンネル・マルチ	マルチ			

「つや風」を生かすポイント

① 抽苔の安定と揃い性

「つや風」の最大の特長は、「つや風」が栽培される作型の品種の中では一番抽苔が安定している点と、揃い性がよい点の2つが挙げられます。したがって、従来この作型で栽培されていた「藤風」などの品種と同じ作型でも、より安定した抽苔性を持つので、今まで以上に安心して栽培できます。また、「つや風」のあとに「藤風」を栽培すれば、よりよい品種構成となります。

② 無理な早まきは避ける

抽苔や低温伸長性は「藤風」より優れていますが、その力を過信しての無理な早まきは、短根や抽苔の原因となるので避けてください。あくまでも「藤風」の作型の中で、その晩抽性と低温伸長性を生かした播種時期でお使いください。

③ 播種は計画的に

本種は太りに性に優れているため、トンネル栽培の5月どりでは収穫時期に肥大が早くなります。播種量と播種日の間隔を調節して、計画的に栽培するように心掛けてください。

④ 高温期の栽培は不向き

生育後半が高温すぎると、本種は

肥大が鈍くなり尻の肉づきも悪くなる性質があります。したがって、まき遅れは禁物で、本種の低温肥大性を生かすためにも適期まきで順調に生育させることが得策です。

栽培のポイント

① 生育初期の注意点

この時期は、特に土壌水分と温度の確保が必要です。播種から本葉3枚目ごろまでは低温による花芽分化が起きやすく、抽苔する危険性が一番高い時期なので保温に努めてください。特に、冷涼地の早まきでトンネル栽培を行わないところでは、マルチ栽培のみならず、不織布などでベタがけ栽培を行うなどして生育初期の保温を図ることが必要です。

土壌水分は、本葉5〜6枚までは適湿が保たれるように気をつけてください。この時期に乾燥すると、低温による被害や抽苔が出やすくなります。また、短根やヒゲ根の発



「つや風」は収穫時期に肥大が早くなるので、1日の出荷量にあわせた面積、播種日の間隔を前もって計画しておく。

生も多くなります。

② 生育中期～後期の注意点

トンネル栽培の生育中期から後期にかけては、温度管理が重要なポイントになります。生育が進むにつれて、外気温の上昇にとまない、トンネル内の温度も高くなります。この時期の高温は葉がですぎて根の肥

大が悪くなったり、風通しが悪くて病気が発生する原因となるため、日中の温度が25℃を超えないように換気を行ってください。

収穫・出荷時のポイント

前述のとおり、「つや風」は太り性が早い品種です。特にトンネル栽培の5月どりや冷涼地の7月どりは、収穫時期に肥大が早くなるため、収穫遅れにならないように気をつけてください。直売所などへの出荷の場合でも、1日の出荷量を考慮した面積や播種日の間隔で計画的に播種してください。



「つや風」の出荷作業中。肌のテリ・ツヤに優れ、揃いも抜群の「つや風」には市場からの評価も高い。

「つや風」栽培のQ&A

春ダイコン「風」シリーズとの使い分けは?

A タキイの春ダイコンには、今まで「梅風」「桜風」「藤風」が発売されていますが、今回、この3品種に「つや風」が加わりましたので、その使い分けを説明します。

一般地年内まき

春ダイコンの栽培期間で最初に播種するのは「梅風」です。抽苔が安定していて、低温でも根長がよく伸びます。また、抽根が少なく、寒さによる肩コケ症状（抽根部の肥大が悪くなる）や首部の傷みも発生しにくいといった特長があります。

一般地12月～1月まき

抽苔が安定して、低温でもよく太る「桜風」が適しています。「桜風」は尻づまり良好で青首の色も鮮明なので、市場性に優れています。

一般地1月下旬～3月まき 冷涼地5～6月まき

この時期は今まで「藤風」をおすすめしてきましたが、この作型の前半部分は「つや風」が適しています。「藤風」より抽苔が安定して、低温下での伸長性、肥大性に優れています。

肥料設計はどれくらいが適当ですか？ また、どのように決めるのですか？

A 「つや風」の肥料設計は、今まで冷涼地4月下旬～5月中旬まきや中間地1月下旬～3月下旬まきトンネル栽培、

暖地1月中旬～3月中旬まきトンネル栽培で栽培している品種と同じ肥料設計で十分栽培できます。ただし、現在の肥料設計で、収穫時に葉勝ちになって根の肥大が悪くなったり、軟腐病が多発したりした場合は少し肥料を控えめにしてください。

肥料の中でも、チッソ量の多寡は栽培や環境にも大きな影響を及ぼします。チッソ過多になると、栽培面では、生育後半に葉勝ちになって根の肥大が悪くなったり、裂根や空洞症、軟腐病の発生にもつながっています。環境面では、地下水汚染につながる可能性があるため注意が必要です。

肥料の量を決定するには事前に土壌診断を行い、その結果をもとに前作との兼ねあいや土壌の肥沃度、ダイコンの前作のでき具合などを考慮して決めてください。

春ダイコンを栽培する時にはどんな病気に気をつければよいですか？

A トンネル栽培の遅まきや冷涼地の初夏どり栽培では、軟腐病や萎黄病の発生が見られます。軟腐病の原因のひとつにチッソ過多による裂根も挙げられるので、施肥量に注意してください。萎黄病の発生圃場では、萎黄病に耐病性のある品種で対応してください。「つや風」は萎黄病に特に強い品種ですが、激発圃場では輪作などで連作を避けるようにしましょう。

産地の事例紹介

今年の春は、各地で低温による抽苔が問題になりました。そのような中、「つや風」は従来の品種と比較して抽苔が安定しているという結果が出ています。ここで各産地の事例を紹介いたします。

熊本県小国地区

2月下旬から3月にかけて「つや風」が播種されました。従来の品種と比較して、根長が長めで肥大が良好という結果に高い評価を得ています。この産地の近隣でも、3月中旬まき、5月下旬どりのマルチ+ベタがけ栽培で従来品種が抽苔した中、「つや風」はほとんど抽苔せず、肥大がよく肌がきれいなものが収穫でき、高い評価が得られました。

岐阜県岐阜市

1～2月まきトンネル栽培で、「つや風」は従来品種と比較して、肥大性・揃い性が抜群で高く評価されています。

青森県東北町

4月下旬まきのマルチ+ベタがけ栽培で、従来品種より抽苔が安定して、肥大も良好なため、高い評価を得ています。今年は5月に低温があり、かなり抽苔が問題となった年でした。

北海道十勝地区

5月上旬まきのマルチ+ベタがけ栽培で従来品種が抽苔を起こす中、「つや風」はほとんど抽苔せず、肥大良好で収穫できました。北海道も青森同様5月に低温があり抽苔が問題になった年だったので、ベタがけなしの栽培ではどの品種もすべて抽苔し満開になりました。